

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要について

吉野川市教育委員会

文部科学省が実施している「全国学力・学習状況調査」における吉野川市の結果の概要についてお知らせします。なお、本調査により測定できるのは、特定教科の学力の一部分や教育活動の一側面です。

1 はじめに

「全国学力・学習状況調査」は児童生徒の学力を把握し、学校での教育活動を充実させ、児童生徒の学習状況の改善に役立てることを目的に毎年4月に実施されています。

吉野川市教育委員会におきましては、調査結果の概要の公表をとおして、学力や生活の特徴的な傾向を共有し、教育課題を改善するために、学校・家庭・地域が連携して、児童生徒のさらなる学力向上をめざしていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。なお、調査結果の概要ということで、学力や生活の特徴的な傾向が表れている内容について、現状や改善の方向性を示す形でまとめています。

2 調査の概要

(1) 調査目的

- ① 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ ①②のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象

- ・小学校第6学年の全児童（本市対象児童数248名）
- ・中学校第3学年の全生徒（本市対象生徒数234名）

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査（小学校：国語、算数）（中学校：国語、数学）
 - ・国語、算数・数学はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題
 - (ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - (イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ② 質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活に関する調査内容）
 - ・学校に対する調査（指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備などに関する調査内容）

(4) 調査日時

- ・令和6年4月18日（木）

3 全国学力・学習状況調査の分析結果

(1) 教科に関する調査結果 —全国正答率との比較から—

小 学 校 (吉野川市)

教 科	結 果
国 語	吉野川市全体の正答率・・・・・・・・・・ 下回る
	・「知識及び技能」・・・・・・・・・・ 下回る
	・「思考力・判断力・表現力等」・・・・・・ 下回る
算 数	吉野川市全体の正答率・・・・・・・・・・ ほぼ同程度
	・「知識及び技能」・・・・・・・・・・ 上回る
	・「思考力・判断力・表現力等」・・・・・・ 下回る

中 学 校 (吉野川市)

教 科	結 果
国 語	吉野川市全体の正答率・・・・・・・・・・ ほぼ同程度
	・「知識及び技能」・・・・・・・・・・ ほぼ同程度
	・「思考力・判断力・表現力等」・・・・・・ やや上回る
数 学	吉野川市全体の正答率・・・・・・・・・・ 上回る
	・「知識及び技能」・・・・・・・・・・ やや上回る
	・「思考力・判断力・表現力等」・・・・・・ 上回る

上回る	+2.0%以上
やや上回る	+1.0%～+1.9%
ほぼ同程度	-0.9%～+0.9%
やや下回る	-1.0%～-1.9%
下回る	-2.0%以下

(2) 設問別の主な集計結果

◇ 小学校国語 ◇

《身に付いていること》

- ① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との表し方を理解し使うこと
- ② 目的や意図に応じて、集めた資料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること
- ③ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと

《身に付けさせたいこと》

- ① 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- ② 目的や意図に応じて、集めた資料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること
- ③ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

◇ 小学校算数 ◇

《身に付いていること》

- ① 除数が小数である場合の除法の計算をすること
- ② 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと
- ③ 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解していること

《身に付けさせたいこと》

- ① 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと
- ② 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できること
- ③ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できること

◇ 中学校国語 ◇

《身に付いていること》

- ① 短歌の内容について、描写を基に捉えること
- ② 行書の特徴を理解すること
- ③ 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること

《身に付けさせたいこと》

- ① 文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみること
- ② 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること
- ③ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること

◇ 中学校数学 ◇

《身に付いていること》

- ① 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができること
- ② 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること
- ③ グラフの傾きや交点の意味を、事象に即して解釈すること

《身に付けさせたいこと》

- ① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- ② 筋道を立てて考え、証明すること
- ③ 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすこと

(3) 質問紙による調査結果

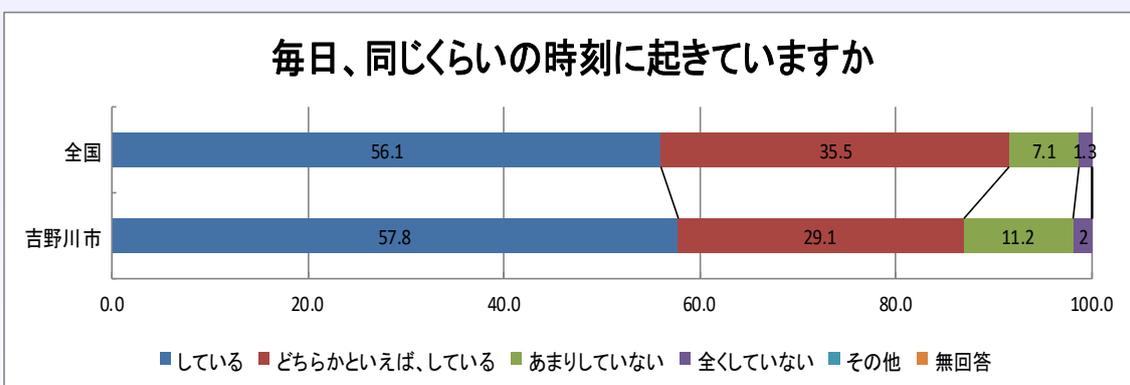
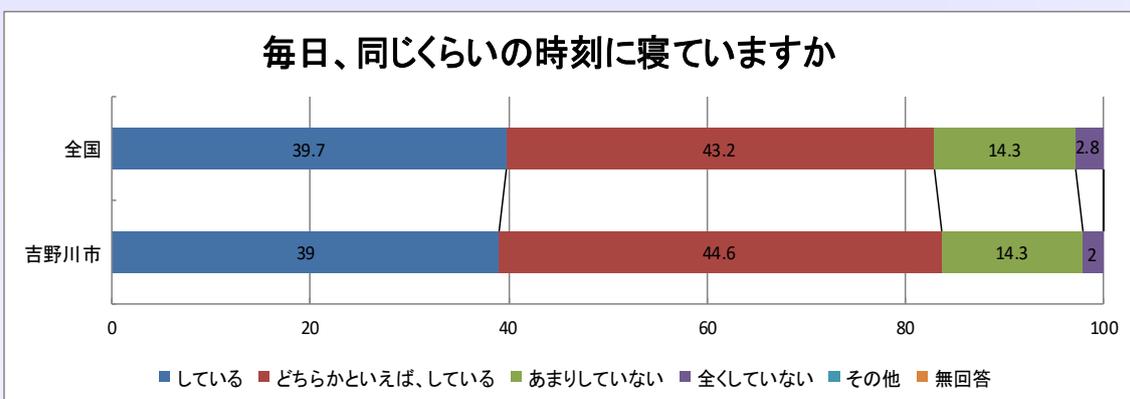
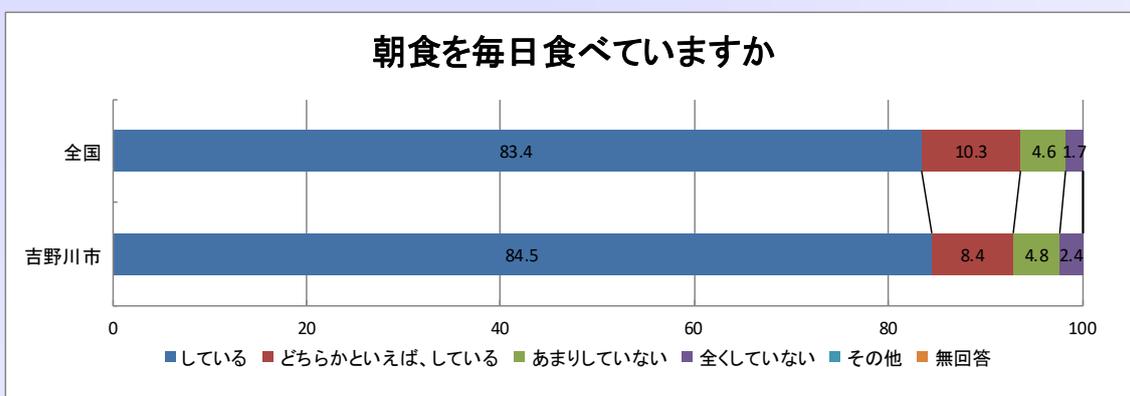
① 小学校

《基本的な生活習慣等》

小学校

- 朝食を毎日食べていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

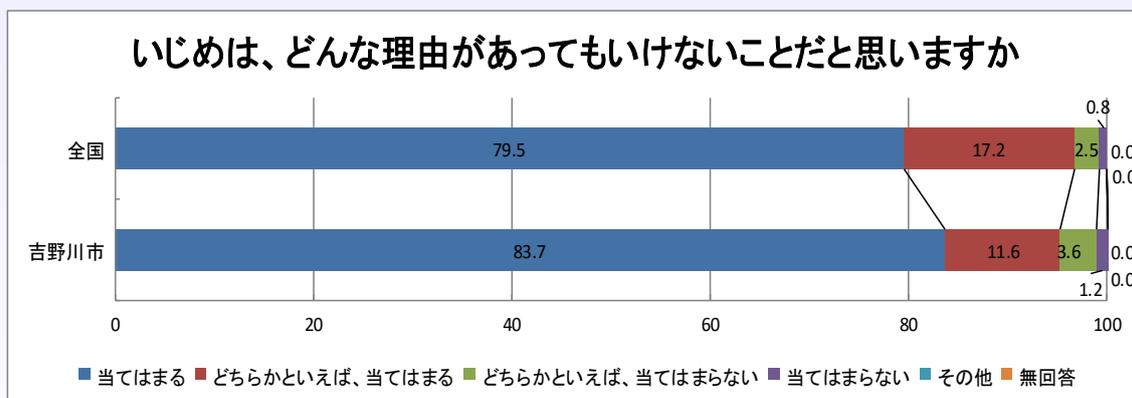
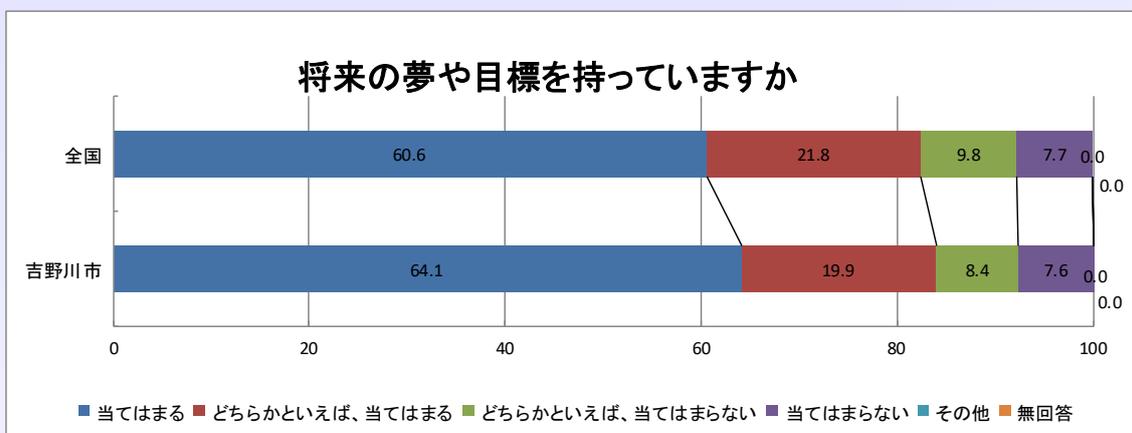
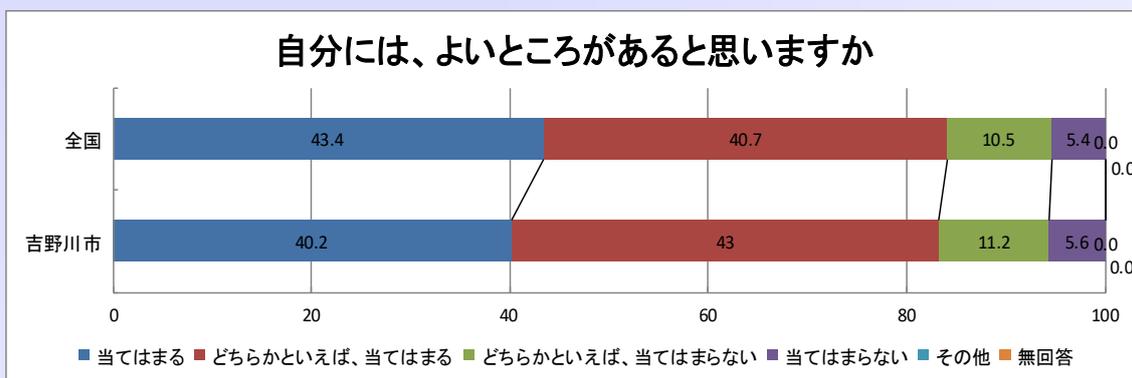
「朝食を毎日食べている」と回答した児童は92.9%（全国93.7%）でした。
 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童は83.6%（全国82.9%）で、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童は86.9%（全国91.6%）でした。
 学力との相関関係を見ると、「当てはまる」と回答した児童ほど教科の正答率が高い傾向が見られました。



- 自分には、よいところがあると思いますか
- 将来の夢や目標を持っていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

「自分にはよいところがある」と回答した児童は83.2%（全国84.1%）で、全国平均とほぼ同程度でした。学力との相関関係を見ると、「当てはまる」と回答した児童ほど算数の正答率が高い傾向が見られます。今後も引き続き、児童の自己有用感等を高めていける教育活動を行っていきます。

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は84.0%（全国82.4%）で、全国平均を1.6ポイント上回っていました。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童は95.3%（全国96.7%）でした。

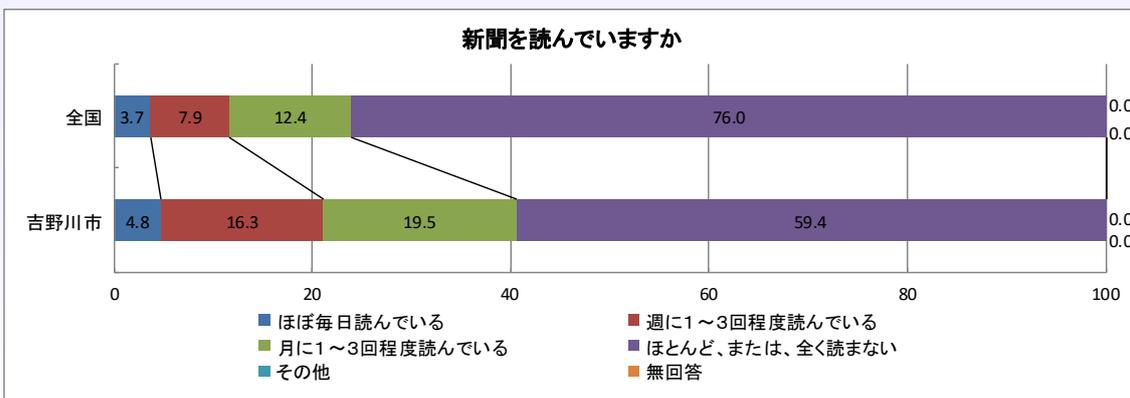
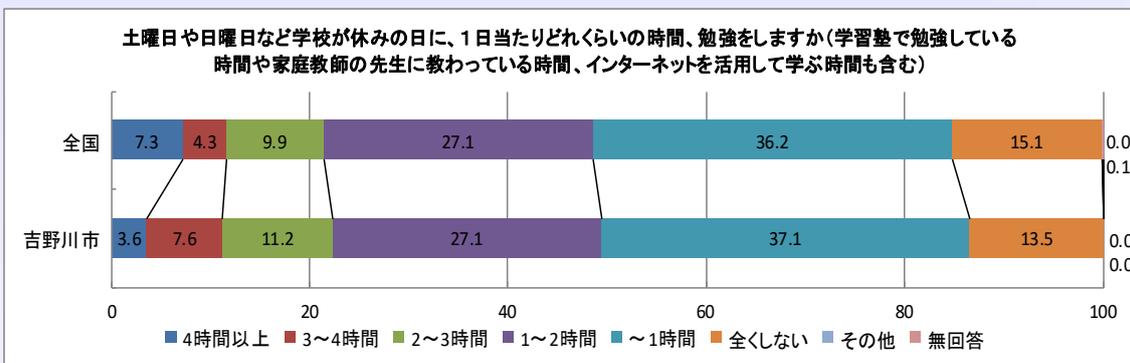
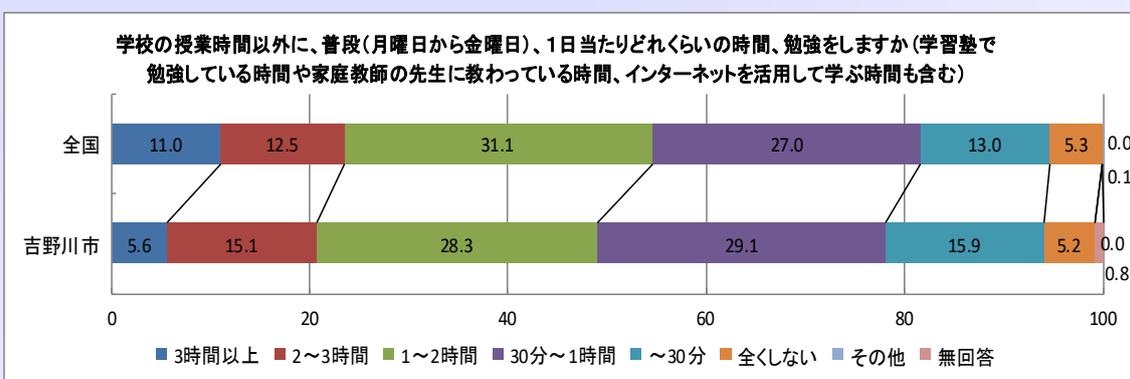


- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- 新聞を読んでいますか

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強をしている」と回答した児童の割合が49%（全国54.6%）、「学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童の割合が49.5%（全国48.6%）でした。

「新聞をほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」「月に1～3回程度読んでいる」と回答した児童の割合は合わせて40.6%で、全国平均24%を著しく上回っています。学力との相関関係を見ると、「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童ほど教科の正答率が高い傾向が見られました。

引き続き、新聞に触れる機会を増やしていけるように工夫してまいります。

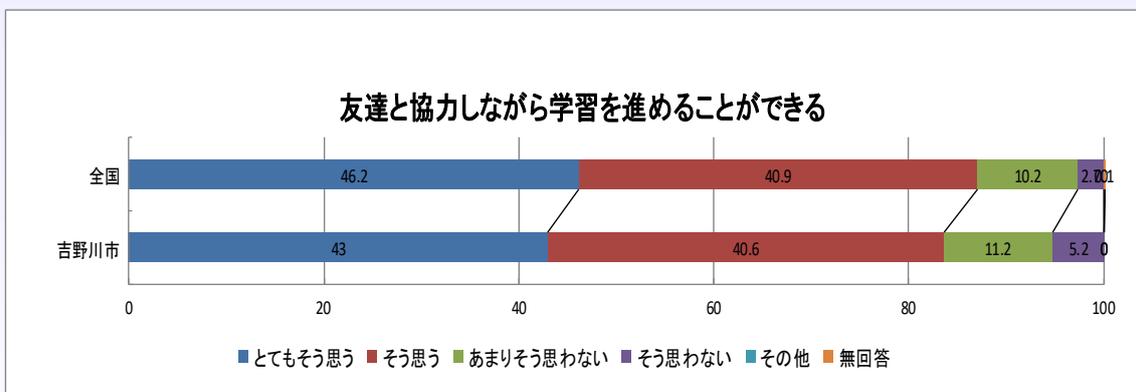
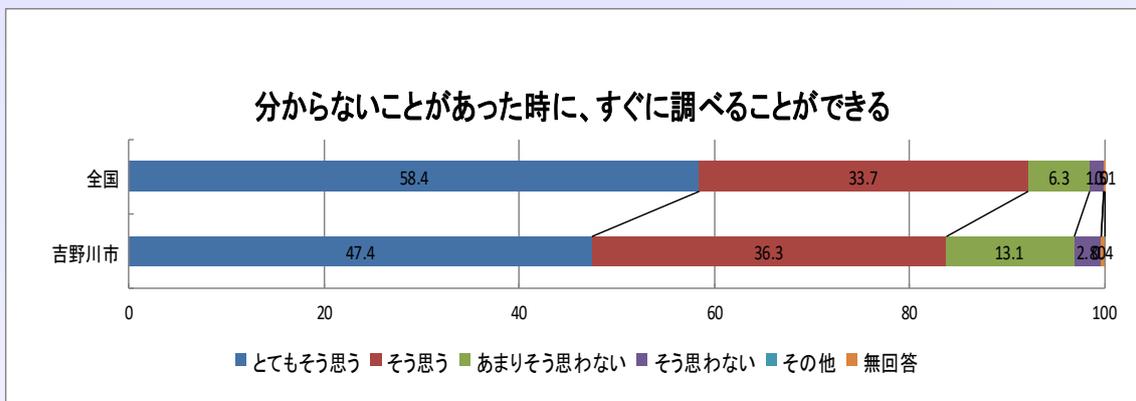
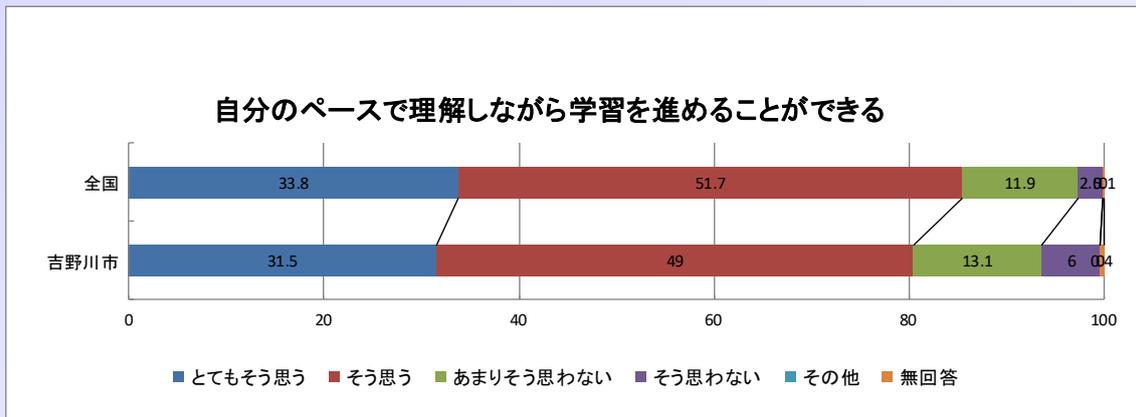


《ICT を活用した5年生までの学習の中での活用状況》

小学校

- 自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか
- 分からないことがあった時に、すぐに調べることができますか
- 友達と協力しながら学習を進めることができますか

「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した児童は、80.5% (全国85.5%) でした。
 「分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」と回答した児童は、83.7% (全国92.1%) でした。
 「友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答した児童は、83.6% (全国87.1%) でした。



《主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況》

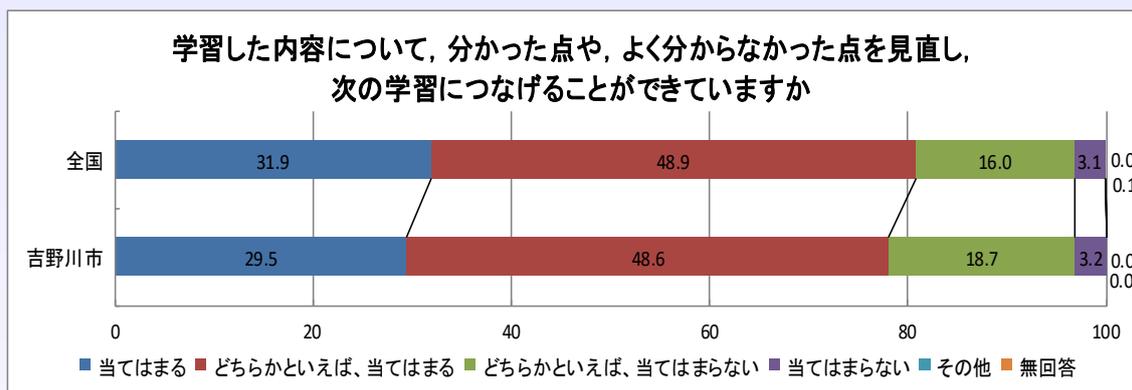
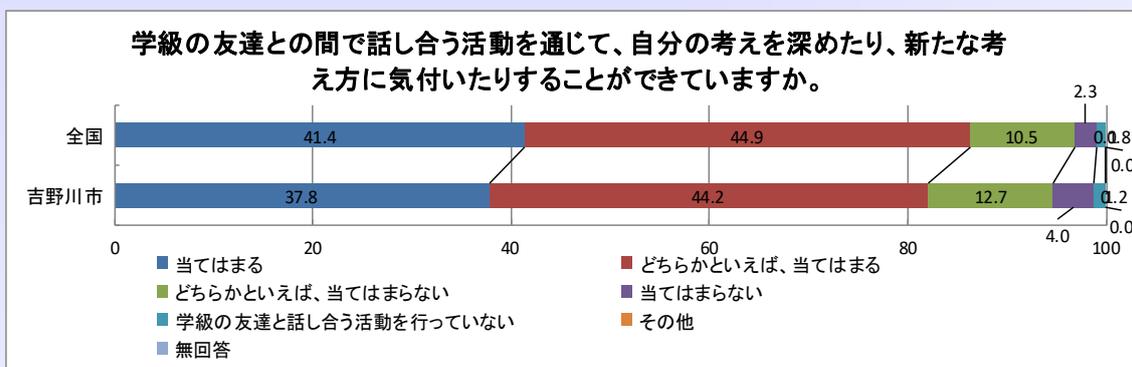
小学校

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

話し合う活動において「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童は82.0%(全国86.3%)で全国平均と比較すると、4.3ポイント下回っていました。

また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童は78.1%(全国80.8%)で、全国平均を2.7ポイント下回っていました。

「学びを振り返る場面を授業の終末で適切に設定する」ことを実践してきましたが、もう一度見直して、授業改善に取り組んで参りたいと思います。



《学習に関する興味・関心等（国語、算数）》

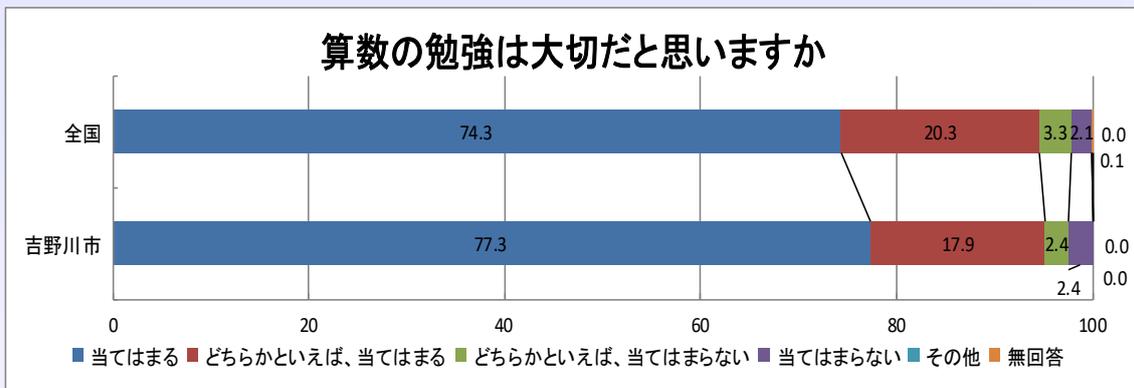
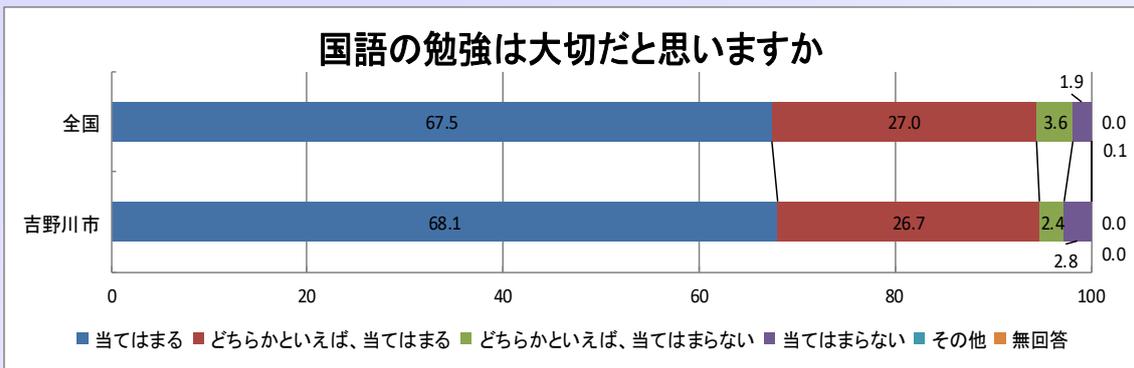
小学校

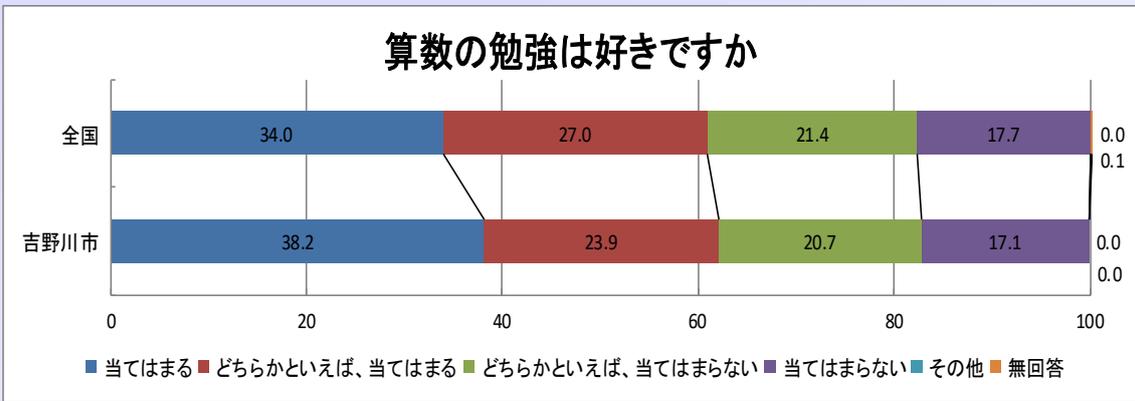
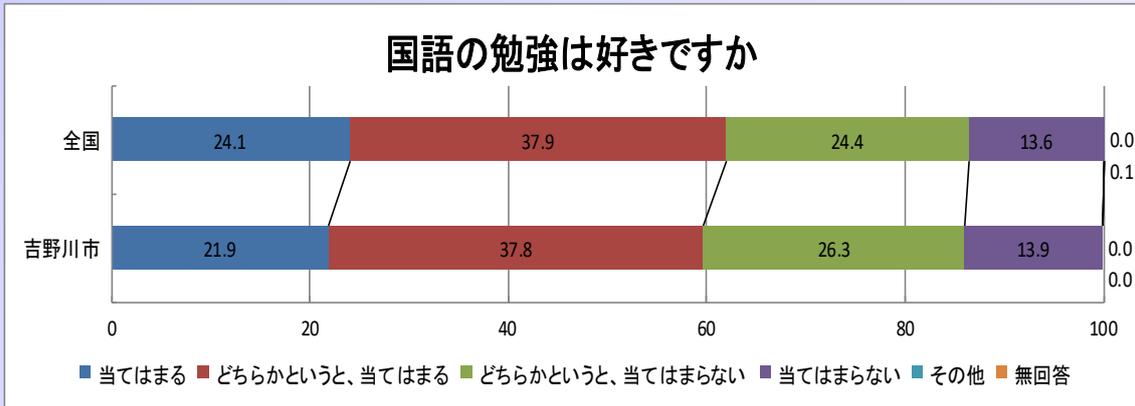
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 算数の勉強は大切だと思いますか
- 国語の勉強は好きですか
- 算数の勉強は好きですか

「国語の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合が94.8%（全国94.5%）、「算数の勉強は大切だと思う」は95.2%（全国94.6%）であり、全国平均とほぼ同程度でした。

また、「国語の勉強は好きだ」と回答した児童は59.7%（全国62.0%）で全国平均を下回り、「算数の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は62.1%（全国61.0%）で全国平均をやや上回る結果となっています。

子どもたちが「勉強が楽しい」「勉強が好きだ」と感じられるような授業を展開していくための、授業改善に取り組んでまいります。





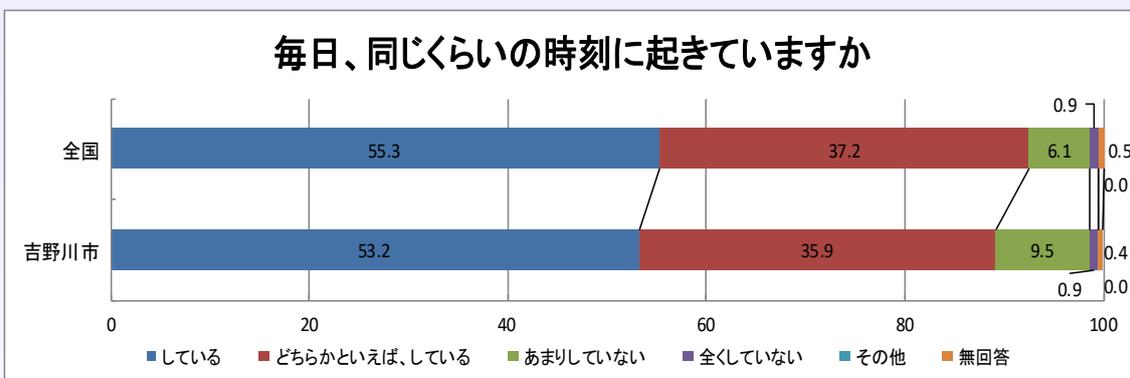
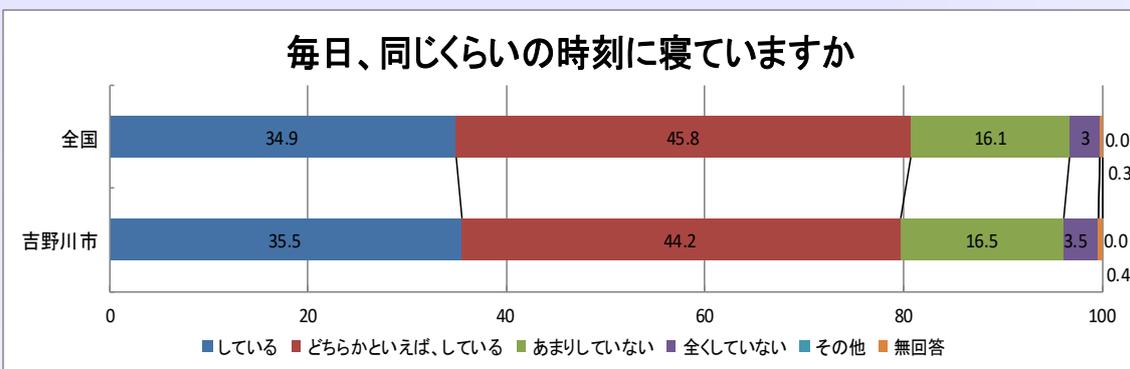
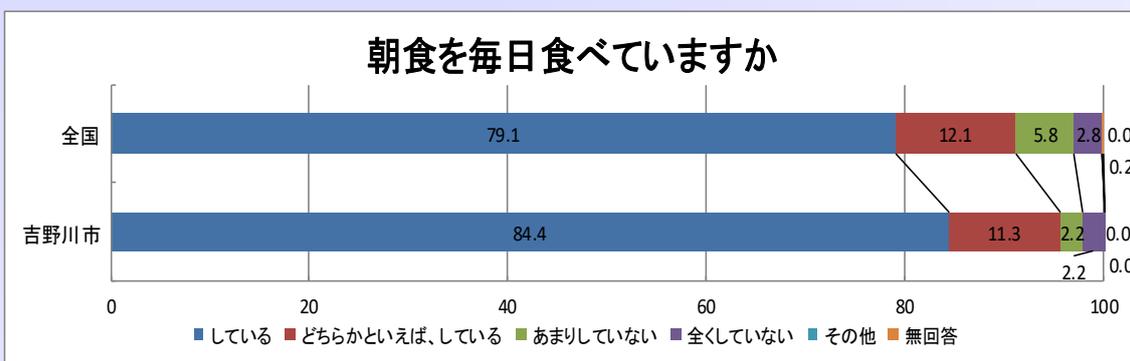
② 中学校

《基本的な生活習慣等》

中学校

- 朝食を毎日食べていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

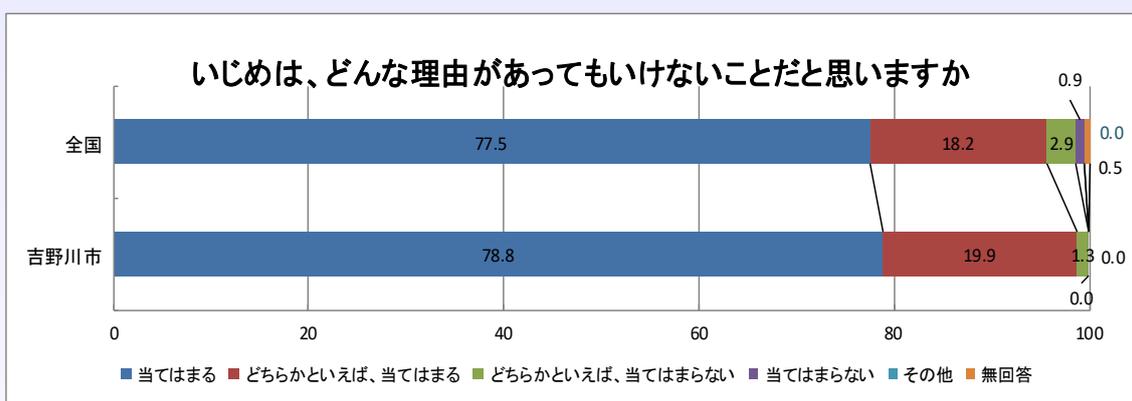
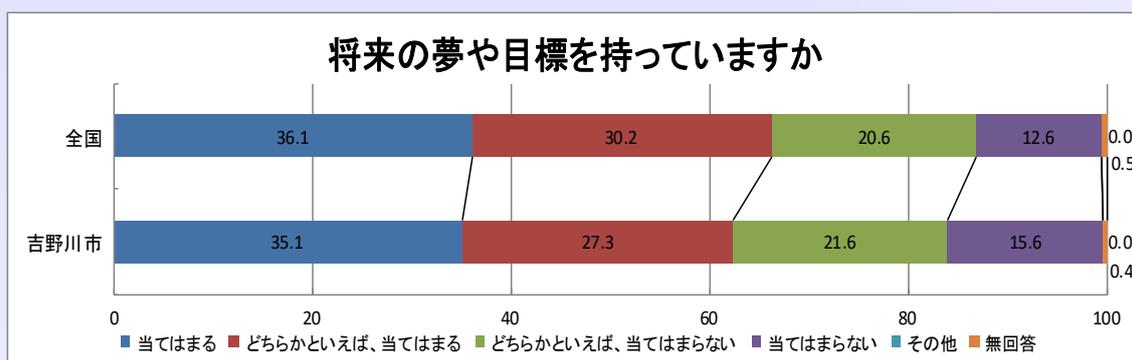
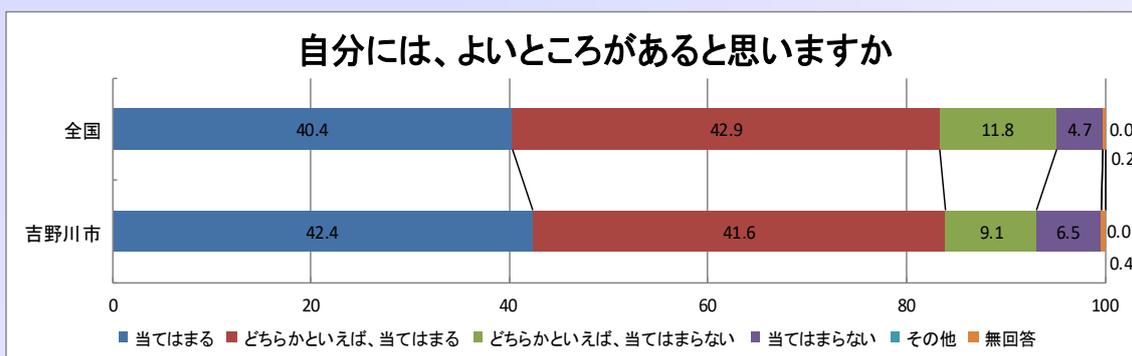
「朝食を毎日食べている」と回答した生徒は95.7%（全国91.2%）でした。
 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒は79.7%（全国80.7%）で学力との相関関係を見ると、「当てはまる」と回答した生徒ほど教科の正答率が高い傾向が見られます。
 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒は89.1%（全国92.5%）でした。



- 自分には、よいところがあると思いますか
- 将来の夢や目標を持っていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は84.0%(全国83.3%)で、全国平均とほぼ同程度でした。「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は62.4%(全国66.3%)で、全国平均を3.9ポイント下回っていました。今後、道徳の授業や人権教育、ポジティブな行動支援(PBS)の更なる推進を図り、生徒の自己有用感等を高めていくように取り組んでまいります。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は98.7%(全国95.7%)で、全国平均と比較すると3ポイント上回っていました。

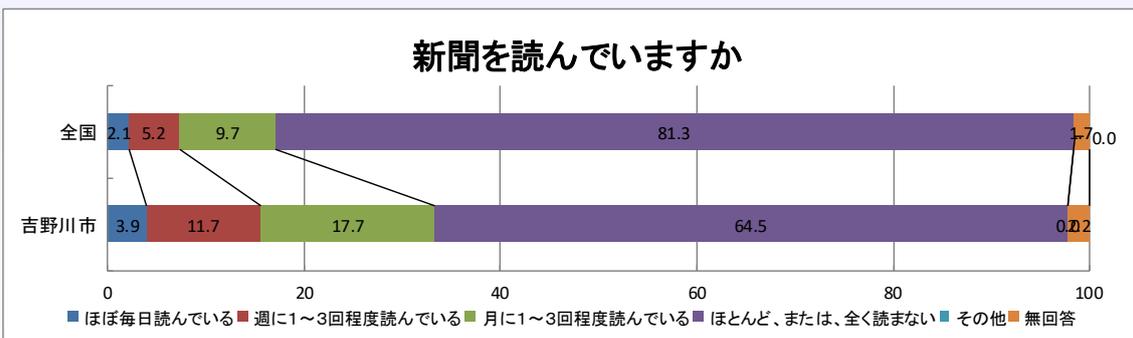
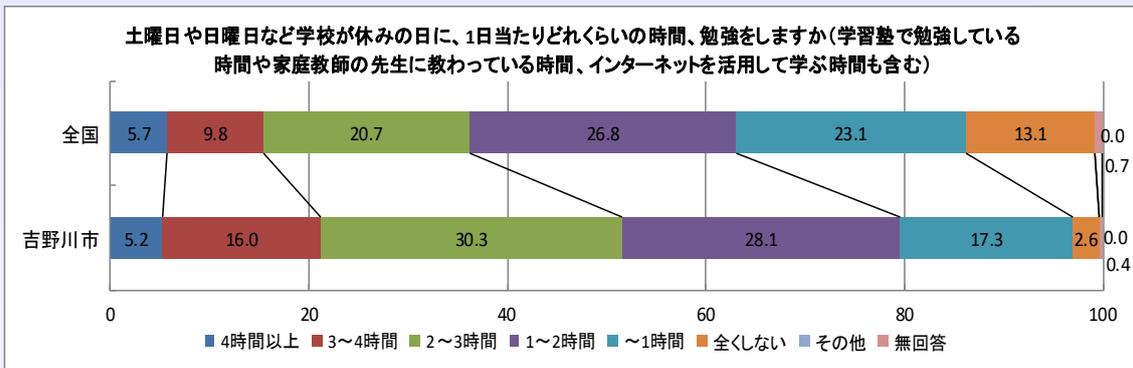
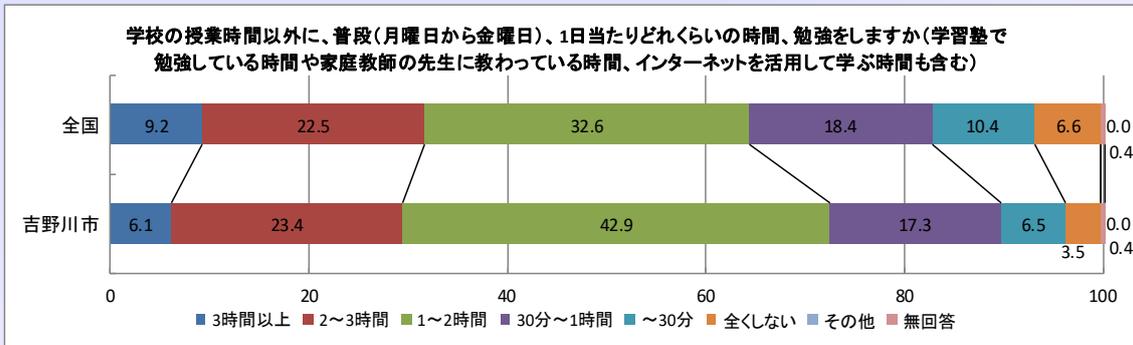


※ ポジティブな行動支援(Positive Behavior Support:PBS)とは、望ましい行動に対する賞賛や承認を通して、全ての幼児児童生徒が主体的に適切な行動を身に付ける教育方法です。

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- 新聞を読んでいますか

1日当たりの勉強時間については、「普段の日に、1日当たり1時間以上勉強をしている」と回答した生徒の割合が72.4%（全国64.3%）で全国平均を8.1ポイント上回っていました。また、「学校が休みの日に、1日当たり一時間以上勉強している」と回答した生徒の割合は79.6%で、全国平均を16.6ポイント上回っていました。

「新聞をほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」「月に1～3回程度読んでいる」と回答した生徒の割合は合わせて33.3%（全国17.0%）で、全国平均と比較して16.3ポイント上回っていました。学力との相関関係を見ると、「ほぼ毎日読んでいる」と回答した生徒ほど教科の正答率が高い傾向が見られます。新聞に触れる機会を更に増やし、言語力向上を図ってまいります。

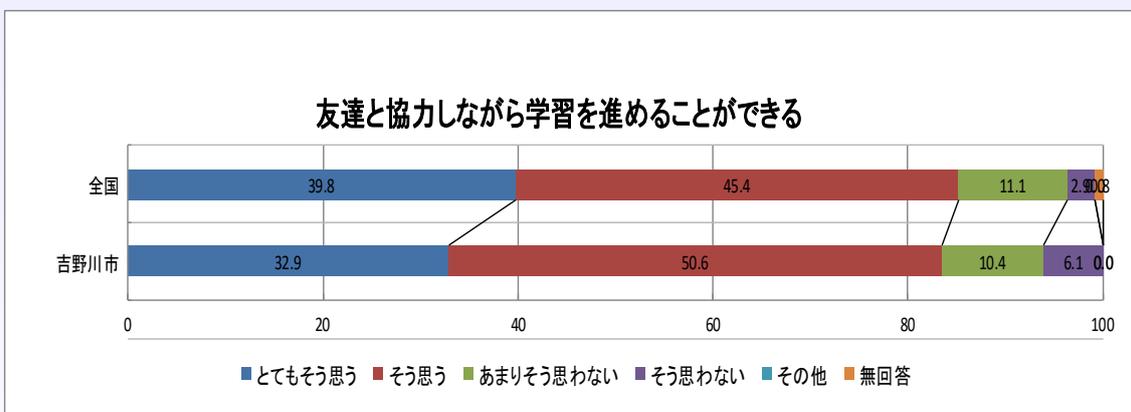
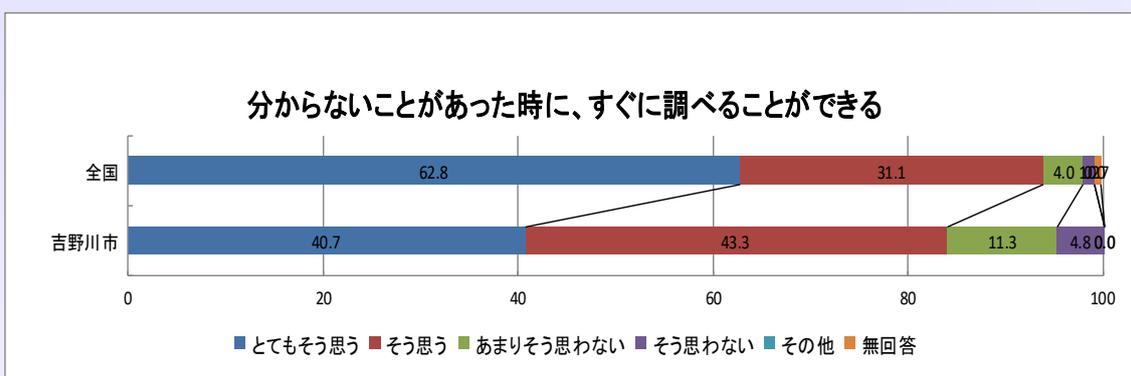
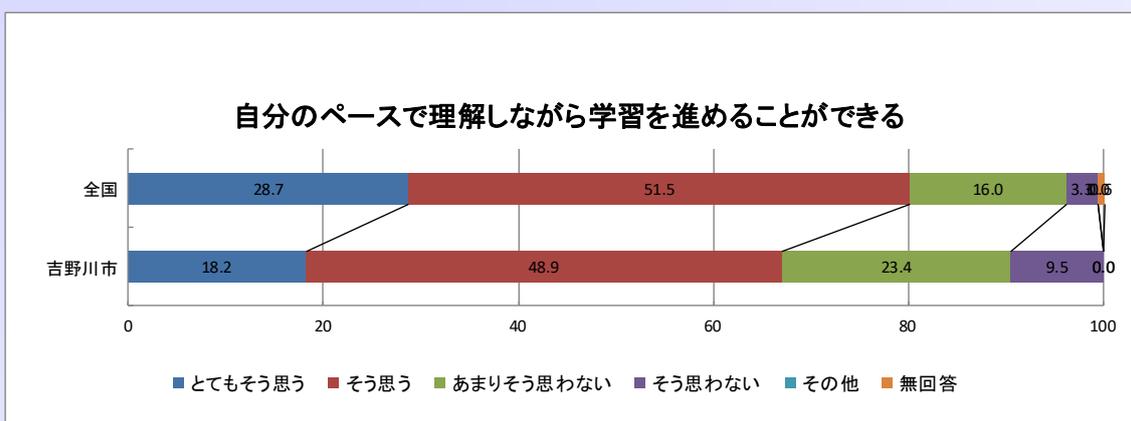


《ICTを活用した1、2年生までの学習の中での活用状況等》

中学校

- 自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか
- 分からないことがあった時に、すぐに調べることができますか
- 友達と協力しながら学習を進めることができますか

「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した生徒は、67.1% (全国80.2%)でした。
 「分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」と回答した生徒は、84.0% (全国93.9%)でした。
 「友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答した生徒は、83.5% (全国85.2%)でした。



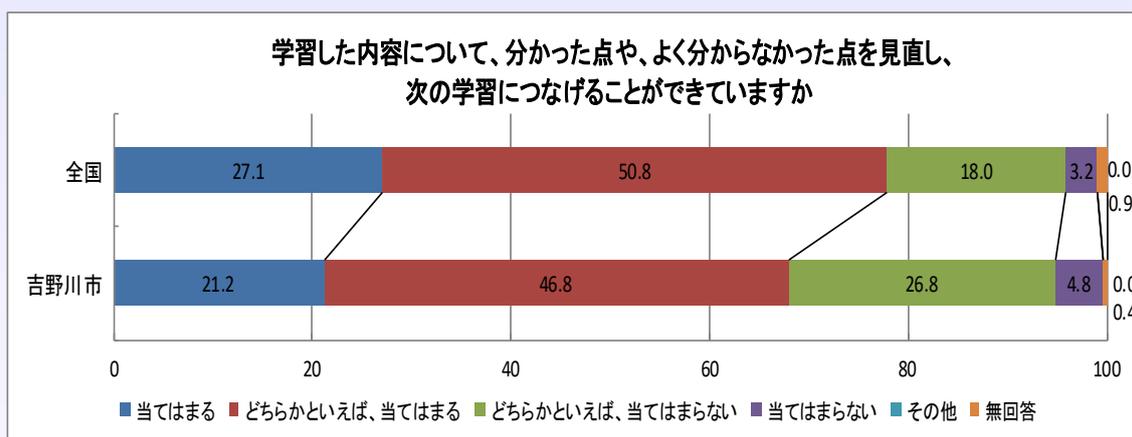
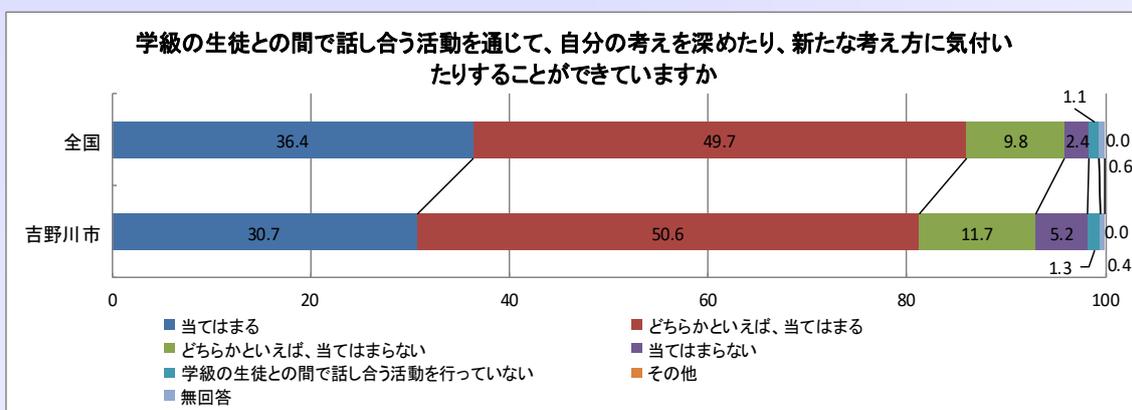
《主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況等》

中学校

- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

話し合う活動において「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した生徒は81.3%（全国86.1%）で全国平均と比較すると、4.8ポイント下回っていました。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した生徒は68.0%（全国77.9%）で、全国平均を9.9ポイント下回っていました。

主体的・対話的な活動を取り入れ、お互いに自分の考えを伝え合い、考えを深化させられるように授業改善に努めてまいります。



《学習に関する興味・関心等（国語、数学）》

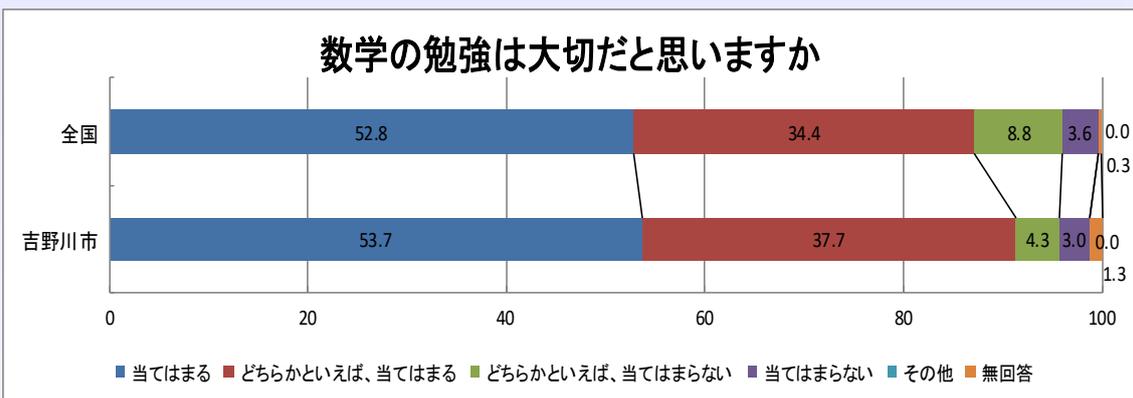
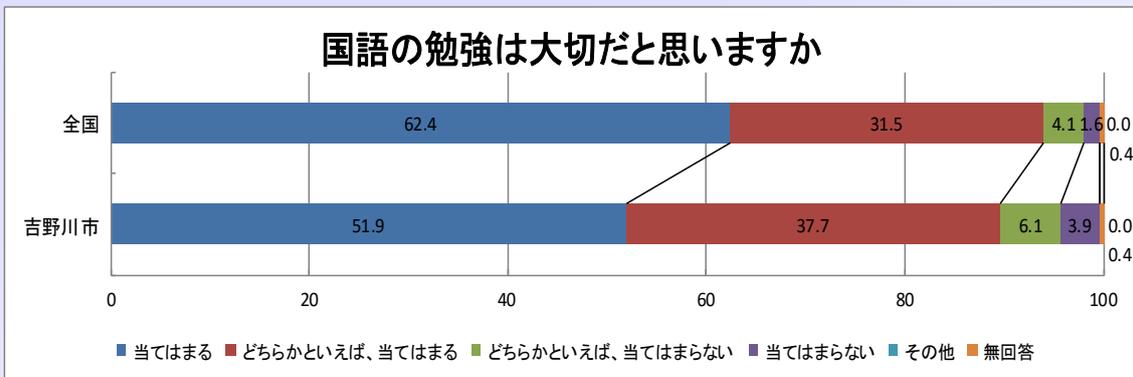
中学校

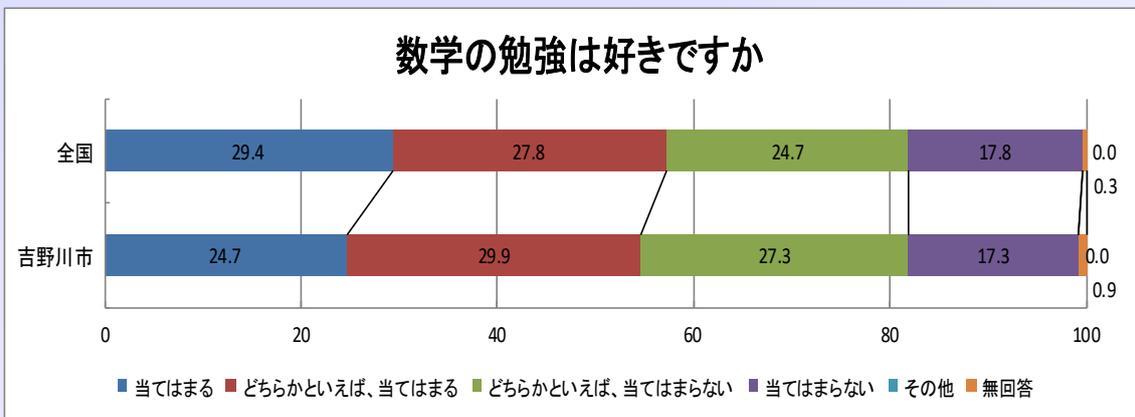
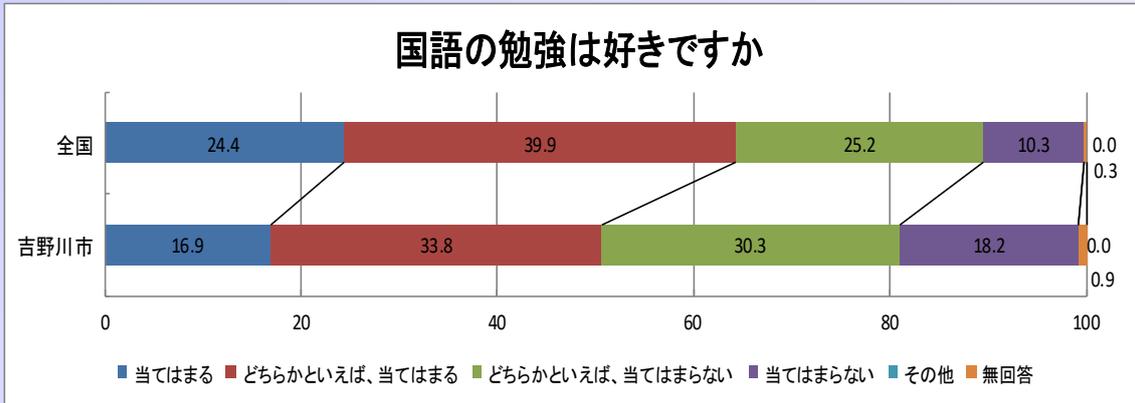
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 数学の勉強は大切だと思いますか
- 国語の勉強は好きですか
- 数学の勉強は好きですか

「国語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は89.6%（全国93.9%）、「数学の勉強は大切だと思う」は91.4%（全国87.2%）、であり、全国と比較すると、国語は下回り、数学は上回る結果となっています。

また、「国語の勉強は好きだ」と回答した生徒は、50.7%（全国64.3%）、「数学の勉強は好きだ」は54.6%（全国57.2%）、となっており、こちらは、全国と比べると下回る結果となっていました。

生徒たちが「勉強が楽しい」「勉強が好きだ」と感じられるような授業を展開していくために、授業改善に取り組んでまいります。





(4) 吉野川市の学力向上への取組

- ① 「学力向上実行プラン」の目標や内容等を全職員で共通理解し、学力向上推進員を中心に、基本的な生活習慣の確立や授業改善等について、組織的な取組を推進してまいります。
- ② 「授業のめあてとまとめ」を毎時間示し、1時間の授業のねらいを明確にするとともに、児童生徒にとって「分かる楽しさを実感できる」授業の実践に取り組んでまいります。
- ③ 内容や時間のまとまりを見通しながら、言語活動の充実や情報活用能力の育成を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでまいります。
- ④ 「GIGAスクール構想」により整備された「1人1台端末」を最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実してまいります。
- ⑤ 各校の実態に応じて、ドリル学習やミニテストなどを実施し、知識の定着を図ってまいります。
- ⑥ 各校で「家庭学習の手引き」を作成し、児童生徒と保護者への啓発のために配布・活用してまいります。
- ⑦ 本市の学力課題に対応した市研修会を実施するとともに、学校においては、さらなる校内研修の充実を図るなど、教職員の指導力向上に努めてまいります。
- ⑧ 特別支援教育についての理解を一層深め、個に応じたきめ細かな指導や児童生徒の特性に合った指導方法の工夫等に取り組んでまいります。
- ⑨ 一斉読書の設定や、学校図書館のさらなる活用等を通じて、読書活動のさらなる推進を図ってまいります。
- ⑩ 各学校でポジティブな行動支援（PBS）の推進を図り、児童生徒の望ましい行動に対する賞賛や承認を通して、学習規律の定着や学習意欲の向上を図ってまいります。

○ 授業改善に向けた4つの視点

- ・ 基礎・基本の充実と活用力の育成をバランスよく行います。
- ・ 考えや意見等を書く活動を積極的に取り入れます。
- ・ 学びを振り返る場面を授業の終末で適切に設定します。
- ・ 「徳島版読解力」の、特に「正確に読む力」の育成を行います。

(5) 学力向上に向けてご家庭で取り組んでいただきたいこと

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、望ましい生活・運動習慣を身に付けるようにしましょう。
- ② 携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、テレビゲームなどの使用においては、使い方や使用時間等についてのルールを確認して、きちんと守れるようにしましょう。
- ③ 身の回りを整理・整頓し、学習準備を整えるなど、集中して学習できる環境づくりに努めましょう。
- ④ 様々な場面において、子どものよさや成長を認めたり誉めたりして、自己有用感を高められるようにしましょう。
- ⑤ 夢や目標、それを実現するための課題等について家族で話す機会を設け、自己の将来や豊かな人生を切り拓いていけるようにしましょう。
- ⑥ 一人一人の違いや個性を認め合い、尊重し合うことを大切にし、お互いの人権を守っていきましょう。
- ⑦ 家庭での学習時間を発達段階に応じて十分に確保し、「家庭学習の手引き」などを活用して家庭学習内容を工夫しましょう。
- ⑧ 学校図書館・図書室や地域の図書館を活用するなどして、本や新聞などの活字に親しませるなど、望ましい読書習慣を身に付けるようにしましょう。
- ⑨ 地域との連携を図り、ボランティア活動や自然体験、地域行事への参加などの豊かな体験を充実させるようにしましょう。
- ⑩ 「なぜ」「どうして」など進んで子どもに問いかけ、生活の中で、さまざまな事象について子どもに深く考えさせる場面を設けるようにしましょう。